

# 県産材のスギの床板の心地よさ

明るいつイル調サイディングに切妻屋根の佐藤様邸。いかにも若夫婦のお住まいらしい、瀟洒な外観だ。車が2台並ぶカーポートの奥に、ウッドデッキが見える。窓の掃き出し口から、布がふわりと見えたのは、吹き込んだ風にカーテンの裾が揺れたのだろう。インターホンを押すと、「はい」とスピーカーではなく、奥の窓のほうから声がした。玄関戸が開いて奥様が迎え入れてくれた。ホールの床板の心地よい足触り。青森県産のスギの無垢材だ。リビングの壁にも天井にもスギの羽目板が張られ、風に揺れるレースのカーテンが「木の空間」に涼やかさを添えていた。



2020年度第13回あおもり産木造住宅コンテスト  
優秀賞受賞

## ユーザー訪問》》佐藤 様邸

DATA 黒石市北美町 2020年12月竣工  
■床面積／34.31坪(113.44㎡)  
■使用青森県産材／《構造材》ヒバ(土台)、スギ(大黒柱、柱)、カラマツ(梁)《内装材》スギ無垢材(床、壁、天井)、スギ集成材(建具)、タモ集成材(階段)。

## 展示場の「木」に好印象 化学物質の臭い一切なし

掃き出し窓のある方が南側だと思つたら、「南はこっちなんですよ」と(尙)キーポイントホームの阿保勝之社長が壁面を指さした。スギの羽目板が張られたその内壁には、窓は付いているものの、横に細長い押し出し窓が並んで2か所あるだけ。あえて東側に掃き出し窓を付けた理由を阿保社長がこう話す。

「奥様も午前中はお仕事で、昼過ぎに帰ってくる生活ですから、大きな窓を南側に付けると、いくらガラスが3枚のトリプルサッシでも、陽当たりでどうしても部屋が暑くなります。それで東側に付けました」

固定観念にとらわれず、施工



の生活スタイルに合わせて設計するのが注文住宅。細やかな配慮が空間に快適さをもたらす。「健康長寿」を提唱するキーポイントホームの、そこがこだわりだ。

ご主人の話 実家が黒石にあるので、その周辺に家を建てようと土地探しから始めました。2年前です。並行して、展示場も見学して歩いていました。私はアレルギーがあるので「木」を使った家が希望でした。結果的には、それに合ったのがキーポイントホームの展示場だったという事です。ね。

「木」のどんなところが良かったですか。



リビングは一つの開放された広い空間ながら、床と天井の仕上げに変化を付けている。引き戸を開けて入ると床は畳敷き、天井はスギの羽目板。そこから奥に接する床には無垢のスギ板が張られ、天井にはカラマツの梁が見えている。細やかな配慮が空間に変化と快適さをもたらしている

奥様の話 「木」の使い方のバランスが良かったですね。あんまり木を使い過ぎていくとくどいけど、壁とか天井の全面にじゃなく、「木」と「白い壁」をバランスよく使い分けている、という感じでした。それに、主人が気にしている接着剤などの化学物質の臭いもしませんでしたし。というよりも「におい」というものが一切なかったですね。きれいな空気みたいというか。

実はわたし、いろいろ展示場を見学した中で、キーポイントホームとは別のある工務店の展示場が気に入っていたんです。その工務店の完成見学会に行ってみるまではね。見学した家の「アラ」が目についたんです。柱と壁との隙間とか。展示場の仕上げとは落差がありました。展示場は、見せるためにお金をかけて豪華に造るものでしょうけど、一般の家はどこでも、その差を感じさせないよ



「木」と「白い壁」がバランスよく使い分けられた対面式キッチン

うにうまく造るのが工務店のセンスだと思うんですけど、アラが目立ちましたね。

その点、キーポイントホームの国吉(弘前市)の家は、展示場とは間取りは違うけど、とてもしっかりした造りで、室内の雰囲気似ているというか、木の色と壁の漆喰の白色とのバランスも良く、自然に空間に溶け込めるような感じが素敵でした。展示場と国吉の家を見学した

だけで、わたしも主人もキーポイントホームに決めました。主人は、建物よりも、テキパキと応じる阿保さんを気に入ったようです。

**阿保社長の話** 佐藤様邸が竣工した昨年(2019年)12月に、完成見学会を開かせていただきました。そのとき、見学に来られた方が、リビングに入ってくるなり、いきなり発した言葉——「なんぼいいんだば!」。実は、佐藤様のご主人の、おばあ様(祖母)だったんです。おばあ様が感心されたのは、リビングの太い柱でした。壁面に向かい合って2本立っているスギの5寸(約15cm)角の大黒柱。一般にはリビングは柱が見えない大壁で造られますが、柱が見える真壁にして、そこに大黒柱を立てたのです。太い柱は、見ただけで力強さが伝わってきますからね。それでおばあ様が、「なんぼいい……!」と、つい声が出たのでしよう。

見学会ではほとんどの人に、

「床暖してるんですか?」と聞かれました。寒い外から入ってきたので、なおさらスギの足触りが温かく感じたのでしよう。柔らかく温かいのがスギの特徴なのです。

「柔らかい」と言葉で言っただけでは実感は伝わらないでしょうから、スギの良さを見直した体験をお話しします。住宅ではなく、「ドッグカフェ」のキッチンでした。2か月前(2020年5月)に、弘前市泉野の弊社の展示場の中に「ドッグカフェ」をオープンしたのですが、その際、愛犬のジャーキーとかおやつとかを調理するキッチンの床を、スギからナラに替えたのです。そうしたら、カフェ担当の妻が「足の疲れ」を覚えるようになったというのです。キッチンに長く立つようになったとはいえ、そればかりではないような気がして、はっと思い当たったのが、床でした。スギか

らナラに変えたことに。堅いナラは表面がキズ付きにくい反面、体重を足裏で跳ね返すのですね。それが疲れに繋がる。対して、柔らかいスギは吸収してくれるんです。この違いが、長い間に健康に影響を与えないはずはありません。スギのありがたさを再認識したいです。

## 低いランニングコスト 快適な老後で健康長寿

——佐藤様邸も「低炭素住宅」だそうですね。

**阿保社長の話** ご主人は、断熱とか気密とかの住宅性能にも関心がありました。弊社の家



ちょっとしたスペースながら棚はスギ、壁には小物置き用のニッチも



必要に応じて二つに仕切れる子供部屋

づくりは、どの現場も壁の内と外から断熱材で挟み込むW断熱を施します。屋根もそうで、かなり手間をかけた構造にしています。そこが、ランニングコストを抑えて長く快適に生活できるようにする「肝」だからです。

いくつかある補助金のうち、「地域材を使う」ことを前提としたのが、国土交通省の「地域型住宅グリーン化事業」です。省エネルギー性の高い住宅を増やし、二酸化炭素の排出を削

減することが目的で、かかる建築費の一部を補助するものです。ご主人の要望される住宅性能は、この補助の対象に合致し、そのまま当社の家づくりにも当てはまりました。

**奥様の話** 実際に生活してみても、良かったと思うのは、各部屋の戸を引き戸にしたことです。リビングもそうです。開けておいても邪魔にならないところがとってもいいです。玄関戸も、プランの段階ではドアだったんですけど、引き戸に変わって良かったです。

**阿保社長の話** 実はこれ、「怪我の功名」といいますが、プランのうっかりミスをカバーするために引き戸に替えざるをえなかったのです。どういうことかと言いますと——市役所に建築確認を上げる段階になって、図面に、付けたはずの「風除室が付いていない」ことが判明したんです。奥様に指摘されて気がまりました。工務店として、どう対処するか、ここが問われる

ところでした。ドアだと、手前に引くスペースを取らなければなりません。引き戸なら横にスライドするので、なくてもいい。その空いたスペースを風除室にすることにしました。ただ、問題がありました。気密です。引き戸にはどうしても隙間が生じるのです。隙間からわずかに侵入する冷たい外気の影響を受けないように手を打ったのが、玄関の床の暖房です。ヒートポンプから玄関のタタキに1本配管をし、暖めることにしました。これがなければ玄関戸が多少結露するはずですが、まったくないそうです。結果オーライでした。

**奥様の話** 動線が良くて、動きが楽です。キッチンから洗面室に行けるし、玄関にも行けるし、その逆からも回れます。勝手がいいってすごく楽ですね。「木」と漆喰壁の「白」とのバランスもいいし、展示場で感じた心地よさがそのままこの家にあります。



# 有限会社 キーポイントホーム

弘前市泉野3丁目11-11  
TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706  
<http://www.ki-pointhome.com/>  
E-mail : staff@ki-pointhome.com

● 薬王堂	● 杉山歯科クリニック	● GEO	● 南警察官 駐在所	● かつば寿司
● しまむら	● ローソン	● 船寛	● マックスパリュ	
● パチンコ トマト	● げんこつ屋			
● 広野 ハッティング センター		● サンデー		

**有限会社 キーポイントホーム**  
「おもり産・木の家」常設展示場&ドッグカフェ

# リビングの掃き出し窓から散歩に出かけ 温水シャワーで足を洗って入る愛犬の家



(2020年10月14日上棟式)

## 間もなく完成 先取り誌上見学会

### ユーザー訪問》》 田中 規雄 様邸



青森市羽白沢田 2021年2月竣工

■延べ床面積/32.12坪(106.4㎡)

■使用青森県産材/《構造材》ヒバ(土台)、スギ(柱)、カラマツ(梁)《内装材》スギ無垢材(床、壁、天井)、スギ集成材(建具)、タモ集成材(階段)。

(有)キーポイントホームに依頼して家を建てた施主の多くは「木の匂いがした」「床のスギ板が柔らかかった」と「木」を「決め手」にあげる。地域の山で育った木が家にも住む人にも馴染むから健康にいいし、「伐っては植える」ことで山も地域も環境が健康に保たれる。その企業姿勢に共鳴するのだ。田中規雄様は、「木の匂い」に惹かれたのは同じだが、実は家を建てることにした一番の理由は、「愛犬」なのだった。愛犬の終の棲家。キーポイントホームが「ペットの新築住宅」を依頼された初のケースをご紹介します。(竣工が来月に迫った1月下旬に内観撮影)

## 愛犬に建てる終の棲家 木の家で快適な余生を

青森市羽白の住宅地で田中様邸の新築工事が進められている。築30年になる自宅を解体し、建て替える計画であったが、近くに土地を求めたとしても工事期間中、借家なりアパートなりを借りなければならない。自分たち夫婦2人だけなら問題は無いが、「家族」がいるのだ。愛犬。1匹ではない。家族同然の犬が4匹もいる。となると、貸すほうも難色を示すだろう。それがネックだった。

15年ほど前に外壁にサイディングを張ってリフォームした自宅は、外観からはさほど傷んでいないように見えるものの、「あちこち古くなってきたし、とにかく寒くてね」とご主人。そん

などころへ朗報がもたらされた。隣家の土地が売りに出されたのだ。願ってもないことだった。それなら犬たちと自宅に居ながらにして、隣に家を建てることができる。

田中様は、自分たちというよりも、愛犬の「わが家」を建てるのだった。4匹はいずれも高齢だ。14才、13才が2匹、一番下が12才。残された時間を、寒くない新しい家で快適に過ごしてほしい。一緒に過ごしたい――。

そんなときにご主人が新聞でキーポイントホームの見学会の広告を目にした。振り返ってこう話す。

**ご主人の話** キーポイントホームの社名は以前から知っていました。本とか雑誌で見えましたからね。それに私、県の林政課に在籍していたことがあって、「県産材」には関心がありました。木の匂いも好きだしね。初めてキーポイントホームの家を見に行ったのが去年(2019年)の12月でした。それ



床も天井もスギの木肌が柔らかかなりビング。掃き出し窓(左)の床にはトリプルサッシからのコールドドラフト(下降冷気)を防ぐためにパネルヒーターを設置、そのタイル敷きの温かな床面は愛犬たちの冬場の居場所になる。そこから繋がる階段下の空間が愛犬たちのくつろぎの「スイートスペース」だ

まで結構あちこちの住宅を見ていたけど、見学会の家に入ったら、木の匂いがしたんですよ。他社の住宅ではしなかった、木の匂い。あ、いいな。それが第一印象でした。

**阿保勝之社長の話** その見学会に田中様ご夫婦がおいでになったときの、私の第一印象は、愛犬の話でした。大好きな方だな、と。私も大の犬好きだし、好きな者同士、分かるんですよ。家のことよりも、愛犬の話で盛り上がりました。翌年の春に、弊社の住宅展示場内に「ドッグカフェ」をオープンさせる予定でしたので、そのときにはぜひご案内しようと思っていました。

こちらから案内する前に、ご主人のほうからメールをいただいたのが今年の5月でした。「展示場を見学したい」と。ナイスタイミング。ちょうどドッグカフェがオープンしたばかりだったのです。犬が取り持つてくれた縁でした。

**ご主人の話** ほんと、そうです



ね。愛犬のために家を建てるのだから、犬にとつてどの工務店の家がいいのか、それが決め手です。結論は明らかでした。展示場にドッグカフェをつくる工務店なんて他にありません。犬

との豊かな暮らしを考えていることと、「木の匂い」で、自ずとキーポイントホームに決まりました。

新しい家は(2021年2月完成予定)、愛犬たちが散歩に

行くときに、リビングの掃き出し窓から同じ床の高さのテラスに一旦出て、そこから出掛けられるようになっていきます。テラスは屋根付きで、人工芝を敷く床には老犬が歩きやすいよ

うに緩やかな傾斜が付きまます。テラス兼スロープですね。

散歩から帰ってくると、愛犬は風除室の温水シャワーで足を洗って家に入ります。こんな細かなところまで、愛犬専門工務店“でなければ配慮が及びませんね。

## “犬”ならキーポイント スギの調湿・消臭・抗菌

阿保社長の話 犬は言葉を話しません。その代わり吠えや鳴くこと、しぐさや行動で飼い主に意思を伝えます。飼い主は自ずと愛犬に注力し、触れ合い、そのシグナルや行動の意味を理解するのです。自分が飼っている経験からも、愛犬と一緒に暮らすには躰が必要ですし、飼い主は学びと責任が必要になります。

愛情を注ぐことは大切ですが、甘やかしすぎておやつなどを与えすぎると、人間と同じで、身体の負担になったり、いろんな病気の予備群になります。



散歩中の田中様と愛犬たち。(右の写真)散歩から帰ってきた愛犬たちが足を洗う専用の温水シャワー

愛犬の健康を願うなら、食や運動、室内の生活環境が非常に大事になるのです。室内における愛犬の居場所や床のすべり具合、生活環境(温湿度など)は、特に注意しなければなりません。健康な暮らしのポイントは人も愛犬も同じなのです。

うちのいちご(愛犬・トイプードル4歳)は、食いしん坊でよく食べます。ペット食育士である家内のできる手づくりご飯が大好き。そのせいか寝るときはいつも家内と一緒にです。キッチンで洗い物をしているときは

じつと傍で待っていて、いよいよ寝室に向かうとパツツついていくんですよ。その姿がまためんこくてね。

**ご主人の話** うちでもそうなんです。私がベッドに入ると、もぐり込んできて、くっついて寝るんですよ。そういう生活がもう14年ですからね。14歳って言えば人間だとかなりの老人です。一日でも長生きしてほしいです。親が亡くなれば休み(忌引き休暇)は一週間だけど、わんこがもしそうになったら、一か月休んでも立ち直れないかもしれない

もしません。

### 阿保社長の話

家づくりでは断熱・気密が良いことが「キーポイント」です。どの部屋も温度差がなく、冬暖かく、夏涼しく、低燃費で過ごせることが大切になります。

弊社では、もう一步進んで、家の快適・

健康な生活、充実した暮らしには「潤い」が必要だと考えています。それが愛犬と触れ合うことによる「潤い、癒し」です。子供はいつか巣立っていきませんが、愛犬はいつも尻尾を振って傍にいてくれます。その存在が心に潤いを与え、身体も健康にしてくれるのです。

愛犬との快適・健康で充実した暮らしには、あおもり産の無垢材を使って建てた家がしっかりと支えています。スギの持つ調湿・消臭・抗菌効果です。また、陸奥湾平内のホタテ貝殻入り漆喰壁の調湿・消臭効果も相乗します。そういう澄んだ空気環境で充実した暮らしができるのです。

人間主体に建てた家の片隅を愛犬の居場所に考えるのではなく、人も愛犬も豊かに暮らすための心の準備と生活習慣・環境を家族みんなで考え、寄り添う家づくりがこれからのキーポイントホームの住まいです。



## 有限会社 キーポイントホーム

弘前市泉野3丁目11-11  
TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706  
http://www.ki-pointhome.com/  
E-mail: staff@ki-pointhome.com



「あおもり産・木の家」常設展示場&ドッグカフェ



# 有限会社 キーポイントホーム



可愛いくて堪らない気持ち、を表現する言葉として、「かわいい〜」に勝るものはないだろう。「かわいい〜」「かわいい〜」とくり返すほかないのだ。その女性もそうだった。玄関から入ってくるなり、しゃがんで、「かわいい〜」と連呼した。すぐ目の前にいたのは、ワンちゃんのトイプードル。つぶらな瞳がじっと見つめる。「かわいい〜」「かわいい〜」。ここは有キーポイントホームの住宅展示場『あおもり産・木の家』の中に併設した「ドッグカフェ」。この日のワークシヨップ「わんこイスづくり」に参加した女性たちの、お互いのワンちゃんにかける「かわいい〜」の音が響き合った。



## Dog café 木-point

### 展示場にドッグカフェ

### 人も犬も 木の家 で健康

愛犬のためのイス製作スギでワークシヨップ

ワークシヨップ「わんこイスづくり」は、展示場の玄関前に張ったテントの中で行われた。組み立てるイスの材料は、青森県産のスギだ。家具職人があらかじめ製作したパーツを参加者が電動ドライバードビス止めし、自然素材のオイルやペンキを塗る。午前・午後合わせて9組の参加者がそれぞれに愛犬



のためのイスを仕上げた。座らせるのは、わんこ？ — 門外漢の疑問に、女性が笑って教えてくれた。

「誕生日とかね、クリスマスのおきどかに、ワンちゃんを座らせて記念写真を撮るんですよ。イスと言うより、ステージですね」

教えてくれた女性が、展示場に入っていくと、出てきたときには愛犬を抱っこしていた。「ほら、こんなふうに」と実際にイ

# ペットとの

# 豊かな暮らしのために



常設展示場のリビングを改装したカフェの店内



スに座らせてくれた。犬が、そのまま静かにお座りしているのには驚いた。さっと逃げるかと思つた。「家でもこうしているんですよ」と女性。なるほど、つけられているのだ。

犬とイス——。愛犬家なら簡単に結び付くのだろうが、そう

でない人も多い。そもそも住宅展示場の中になぜドッグカフェを開設したのか？ キーポイントホームとペットの関連は？ 阿保勝之社長に説明していただく前に、流れを振り返ってみると——。

## 「リビングを「カフェ」に 「愛犬」を連れて入れる

弘前市泉野にあるキーポイントホームの常設展示場内に『Dog cafe 木・point』（ドッグカフェキーポイント）がオープンしたのは、2020年5月。展示場の従来のリビングを、愛犬を連れて入れるカフェに改修した。犬とのコーヒータ임을楽しみながら、愛犬の食事や健康についても相談できる「場」としてオープンさせたのだ。同時に、そこは「ペットとの豊かな暮らし」を提唱する場にもなる。もともとそれが趣旨だ。ドッグカフェのある住宅展示場は全国的にも極めて珍しい。犬のほうがちろ本能的



スギ板張りだった床は、犬にとって滑りにくいクッションフロアに張り替えた

に「木の家の快適さ」を知っているのではないか。阿保社長がこう話す。

**阿保社長の話** 弊社では「住む人が快適に健康で長生きできる家づくり」を基本理念としています。その「住む人」に「ペット」を加えるようになったのは4年ほど前からです。つまり「人もペットも快適に健康で長生きできる……」と。理由は、わが家でペットを飼うことになったからです。

生後2か月でうちに来たトイプードルの「いちご」。犬を室内犬として飼うのは私も妻も初めてのことで、しつけ方二つとつてもうまくいかず、ネットで検索する日々が始まりました。



展示場の玄関前で行われたワークショップ「わんこイスづくり」

た。

そんな中、手を差しのべてくれるように「愛犬家の為の住宅セミナー」があるのでどうか、という案内を取引先からいただいたのです。早速受講することになりました。犬の歴史に始まり、愛犬と暮らすうえで為になる設計の工夫と素材選び等々を勉強するほどにおもしろくなって、「愛犬家住宅コーディネートター」という資格まで取得しました。

学んで知ったのは、犬との暮らしのリフォームは、単に素材を変えるだけではダメなのだ、ということでした。犬の特性を見て、それぞれの犬に合ったリフォームが必要だということですね。考えてみれば、それは人も同じで、男と女、大人と子供、人種などの違いがあり、一緒にたに「人」と扱うことはできないのと同じですね。

それからは犬に視点を置いて「愛犬の為のリフォーム」としてプランを提案させていただ



ドッグカフェ店長の愛犬のいちごちゃん

くようになりました。

## 愛犬家の役に立ちたい 悩み相談し不安を解消

「いらっしやいませ」

オープン当日、カフェを運営している阿保昌子さんと愛犬のいちごちゃんが出迎えてくれた。ドッグカフェの「店長」がいちごちゃんなのだ。昌子さんは愛犬家住宅コーディネーターでもあり、ペット食育士でもある。

スギ板張りだった展示場のリビングの床が、犬にとつて滑りにくいクッションフロアに変わっていた。据えられたテーブ

ルが三脚。すでに若い女性のお客様が愛犬を連れて来店していた。店内では「犬の無添加手作りおやつ」も量り売りで販売している。犬の健康を考えてすべてが無添加で手作り。

展示場の玄関を入つて、右がドッグカフェ。左が従来のままの洋室になっている。ドッグカフェでのひとときを楽しむもよし、「ペットと暮らす空間づくり」に関心があれば展示場内を見学できる。ペットとの豊かな暮らしの家づくりを展開するキーポイントホームならでは新しいスタイルの展示場に変わ

わった。

## 昌子さんの話

犬の食に興味を持ったきっかけは、愛犬いちごが頻繁に吐くようになったことがきっかけでした。離乳食が終わってカリカリフードを食べるようになった頃です。どうすればよいのか、ネットでいろいろ検索してみると、「手作りごはん」に目が留まりました。試してみると、いちごの調子も良くなつて、吐かなくなつたのです。それで心配がなくなつたわけではありません。子育てのときと一緒で、今度は「栄養バランスは大丈夫？」と疑問が出てきて、またまたネットで検索しました。

居ながらにして情報を得られるネットはまさに文明の利器ではあるけど、なにしろ情報が多すぎます。溢れています。それらの情報の中から、いちごに合っているのはどれなのか、とても判断できるものではありません。かと言って、弘前にはペットのことで相談できる場所が



キッチンでは「手作りおやつ教室」や「ご飯教室」が開催されている

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

ありませんし、困りました。 「それなら自分で勉強しよう」と思い立って、ペットの食育の勉強に東京へ何度も学びに行きました。ペットの栄養学や消化のこと、犬に食べさせてはいけない食材等々……。

犬の食だけに終わらず「健康」という分野にまで学びを進めていき、実のある情報を得ることができました。 驚いたことは犬の健康は「住環境にも関係がある」ということです。ちよつとした不調は環境が原因となっていることもあるということ学びました。樹木が発散するフィトンチッドも効果があるという話を聞いた

時にはホントびっくりしました。人と同じなんですね。犬も環境を整えることで病気を予防することができるなら、私たちにお役に立てることがたくさんあると思いました。

犬の飼い主さんの悩みの多くはしつけや食事のことが多いのですが、犬の食事についてはなかなか相談するところがありません。そこで、犬のことを相談できる、あるいは仲間たちと話し合える「交流の場」をつくらう……。その思いがドッグカフェの開設に繋がりました。

きっかけは動物病院の待合室でした。隣に座った白いミックス犬の飼い主さんが、こう話したのです。

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと

「この子はアレルギーだらけで、ずっと



改装して広くなったキッチン。ここで愛犬のための  
おやつやパースデーケーキなどが作られる

という声もあがるようになってきたのです。

交流の場ができたことにより、話題は食べ物のことばかりでなく、室内のリフォームにも及ぶようになりました。犬の足が滑りにくい床に改修したいとか、ニオイの悩みを改善するスギ板や漆喰に替えたいとか……。もともと工務店ですから、そういう相談こそ本業ですし、愛犬家にとっては、食事のこともリフォームのことも犬のことなら相談できる場として受け入れられたようです。

「Dog cafe 木・point」は地域の「飼い主さんと犬との健康な暮らし」に役立つお店を目標に運営していきたいと思っています。

## 犬のことも家のことも 相談できる交流の場

阿保社長の話 なぜ地元の木にこだわるのか。地元の気候に合うから地元の木に育つわけです。気候に合うから家の部材



として使っても狂いが少ないし、住む人の体にも馴染むので、馴染まない空間に暮らすからその合わない部分が病気と

なつて現れるわけですね。床に張った青森県産のスギの無垢材は足に柔らかく合う。心地好い足触りは健康の第一条件と

言つてもいいくらい大事なことです。冷たい合板に触れると血圧が上がることを考え合わせれば納得できるはず。

室内を地元の木と漆喰の壁で囲うということは、調湿・消臭・抗菌効果の高い環境に住むということ。断熱を二重に

オープン以来わずか半年で(しかも月に6~7回の開店で)たくさんのわんこたちが遊びに来店した(右上:記念写真)



ペットが快適に暮らせる空間は人にも快適——。ドッグカフェは“家づくりの交流の場”にも

施し、トリプルガラス入りの窓で気密を高めた高性能な家。そういうこれまでの弊社の家づくりが、そのままペットにも快適な家だと気がつくようになったのは、愛犬を飼うようになったからです。健康面に気遣って愛犬を観察するようになったからです。いつまでも元気でいてほしいからです。

最近では、人にも快適な家はペットにも快適、ではなく、逆に、ペットが快適に暮らせる家が人にも快適——と思うようになっていきます。愛犬家にしてみればそれほど犬の存在が大切なのです。年老いた愛犬が少しでも長く暖かな家で過ごしてほしいと家を現在、弊社で新築している方もいます。そのお施主様とペット談義になればお互いに頬が緩みつばなしになりますよ。

ドッグカフェを、犬のことも、家のことも話し合える場として利用していただければと願っています。



有限会社 キーポイントホーム

弘前市泉野3丁目11-11  
TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706  
<http://www.ki-pointhome.com/>  
E-mail : [staff@ki-pointhome.com](mailto:staff@ki-pointhome.com)



「あおり産・木の家」常設展示場&ドッグカフェ